

文教協会報

No.690

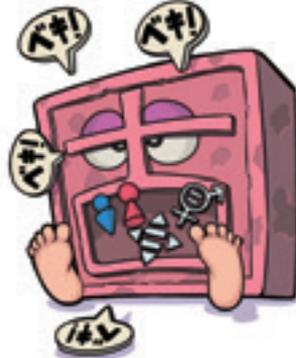
(令和8年2月)



まなびの泉	スマイルサポートチームの紹介……………	2
心のかよいあい	みんなが継続しやすいPTA活動の環境づくり(北小学校)…	3
わくわく協働活動	学校と地域をつなぎ豊かな心を育む(墨俣小学校) ……	3
ぬくもり	子どもが笑顔!!	
ふるさと・再見	大垣ミナソフトボールクラブによるベースボール型授業の指導について…	4
声 こえ VOICE	大垣市の教職員研修の充実に向けて	
～文教のまち 大垣～	～社会の変化に対応する「主体的・自律的な学び」へ～ ……	5
ふるさと美術散歩⑫	豊臣秀吉と大垣(一) ……	6
	秘密のある石……………	7
	大垣市×SDGsお化け 報告会・発表会 ……	8
	大垣市守屋多々志美術館を訪ねて……………	8

大垣市文教協会60周年記念事業

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業
「大垣市×SDGsお化け」を探せ(第2期)
受賞作品が決定しました!

タライバイバイ	トマーレー	ベキベキ
		
<p>(どんなお化け?)</p> <p>水まんじゅうとハリヨを守るために、正しく排水管理をするお化け。水を汚している工場や家を、たらい舟に乗せて遠くへ流してしまう。</p>	<p>(どんなお化け?)</p> <p>横断歩道を渡ろうとしている人がいても、止まってくれない車のお化けと、その車にはりついてブレーキをかけさせようとする、2体のお化け。はりついたお化けは、車に呪いをかけて走れなくしてしまう。</p>	<p>(どんなお化け?)</p> <p>自意識が強く、自分の考えを押し通そうとする非常に厄介なお化け。人が、「こうあるべき!」という固定観念を押しつけようとするときに現れる。</p>



— スマイルサポートチームの紹介 —

○スマイルサポートチームとは・・・

国や県の動向と同じく、近年大垣市においても、全体の児童生徒数が減少する一方で特別な支援を要する児童生徒は増加しています。子どものニーズが多様化する中で、一人一人に応じた支援を行っていくためには、さまざまな機関・専門家との連携に基づく多層的な支援体制の構築が一層必要になっています。

そこで、「早期からの切れ目のない支援と教職員の資質向上」を目的に、教育委員会が中核となって、健康福祉部・子ども未来部等の関係機関が連携して特別支援教育の推進を行う「スマイルサポートチーム」が、令和7年4月に立ち上がりました。「スマイルサポートチーム」は、支援を必要とする子どもとその保護者を中心とし、保健・医療・福祉・保育・教育・労働など、関係者が連携するための「ハブ的」な役割を担い、連携を強化し、早期からの適切な支援につなげています。

○令和7年度の主な取組

1 早期からの切れ目のない支援・・・保護者同士の交流の場の推進～先輩保護者と語る会～

特別支援学校や特別支援学級へ子どもを進学させることに不安を感じている保護者に対し、先輩保護者の話を聞くことで、就学先へのイメージをもち、不安を軽減することを目的として、8月21日に実施しました。

当日は21名の参加があり、3名の先輩保護者の方々から、実際の経験に基づいた具体的な話をさせていただきました。事後のアンケートでは、「就学に向けてイメージができた」「いろいろな人の話を聞いて心が楽になった」「悩んでいるのは自分だけではないということが分かり、安心した」「今度やってみようと思った」など、多くの感想が寄せられました。

この会が参加者にとって有意義な会になったことをとてもうれしく思っています。



先輩保護者と語る会の様子

2 教職員の資質向上・・・訪問支援・校内研修・専門性を高める研修

子どもへの支援の在り方について、要請のあった学校を訪問し、学校のニーズに応じてケース会議に参加したり、要因分析に基づいた対応の在り方に関する校内研修を行ったりしています。特別支援学級や通級指導教室の経営・授業づくりに関する相談や研究会での助言も行っています。また、言語指導などの専門性を高める研修については、保育課と連携し、小学校の通級指導教室担当者が園の先生の研修に参加したり、園の先生が小学校の通級指導教室を参観して研修をしたりと、互いに学び合う機会が増えました。

今後も、教職員の専門性を高める研修の充実を図っていきたいと考えています。

○来年度に向けて

今年度早々に1年生児童への対応について小学校からの相談があり、訪問支援をしたケースがありました。就学前からの支援が確実に引き継がれ、子どもが安心して小学校生活を送ることができるよう、関係機関が連携して就学後のフォローアップをする仕組みを作っていきたいと考えています。

また、就学先を決定する動きについては、「もっと早く情報が欲しい」という、保護者からの意見を受け、就学の前々年度の子どもの保護者にも活用してもらえるようなリーフレットの作成を考えております。

チーム会議を行っていく中で、関係機関の方々と互いに顔が見える関係ができ、日常的に相談しやすくなったり、意見を言いやすくなったりして、距離が近くなったと感じられるようになったことも連携の成果の一つととらえています。

今後も、関係機関との連携を一層深め、子どもや保護者のニーズに、よりの確に答える施策を「共創」していきたいと考えています。

(学校教育課 堀内 教子)



みんなが継続しやすいPTA活動の環境づくり

北小学校 PTA会長 細溝 延孝

現代のPTA活動は、保護者の働き方やライフスタイルが多様化する中で、活動の負担が課題になっているのが現状だと思います。どこのPTAでも、活動の非効率性や、一部の役員に負担が集中してしまうといった課題を抱えているのではないのでしょうか。

そんな中、北小PTAでは、前期から活動全体のスリム化を進めてまいりました。今期の新しい試みとして、執行部の役員会を「Zoom参加」と「リアル参加」の併用形式で行っています。これまで都合が合わずに欠席されていた方も、オンラインで自宅から気軽に参加しやすくなれば、という思いで始めた取組です。

実際に運用してみて、急な子どもの体調不良といったイレギュラー時にも対応しやすく、気軽に参加できるというメリットがありました。また、書面での配付や対面でのあいさつといった「アナログな対応」は、保護者や子どもたちとの信頼関係を築き、結果的に活動を円滑に進める上で大切にはたらく部分もあると、実感しています。

一方で、事前に用意していない書類の共有など、急な対応が必要な際には、やはり「リアル参加」の方が対応しやすいといったデメリットもありました。

このように、良い点も悪い点もやってみることで気が付くことが多くありました。

PTA活動の根幹は、あくまでも子どもたちが安心安全に学校生活を過ごすための手助けになることだと思います。

来期以降も、保護者や役員の皆様が、この活動を「やりやすい」と感じられる環境づくりを、苦労しながらも進めていく必要があると感じています。学校や地域、保護者の皆様と協力し、時代の変化に対応しながら活動ができるように、精一杯頑張りたいと思います。



PTA活動の様子

学校と地域をつなぎ豊かな心を育む

墨俣小学校 PTA会長 清水 里奈

子どもたちはたくさんの方々を支えられ、見守られながら成長していると知ることができた一年でした。

墨俣小学校のPTA活動の一つに、「読み聞かせ活動」があります。

「一日の始まりに心を落ち着けて、物語の世界に浸れる時間を作りたい」という思いから、全学年を対象に朝活動の時間を使って、役員が子どもたちに絵本を読んでいます。SNSやゲームなど、世の中に手軽で面白いコンテンツがあふれている中で、読書をする子が少なくなっている今、読み聞かせは、耳から言葉を聞いて、静止した絵を見て、ワクワクする世界を想像できる楽しさがあります。実際に、役員が絵本を読んでいる時、どの学年も集中して聞くことができ、読み終わったあとも多くの子が手を挙げて感想を発表する姿が見られました。子どもたちの心が健やかに、そして、世界を広げることができる素晴らしい活動だと思っています。さらにありがたいことに、この読み聞かせ活動には地域のボランティアの方々も参加してくださっているのです。子どもたちのために手を挙げてくださる方がたくさんいらっしゃることに、心から感謝しています。

また、読み聞かせ以外にも、親子清掃活動をした時に地域の方々も参加していただいたり、毎日の登下校も見守りボランティアの方が一緒に歩いてくださったりしています。保護者や学校の先生たちだけでなく、地域の方々からも見守られている墨俣小学校の子どもたちは、とても恵まれた環境で成長できているなど感じる日々です。

コロナ禍以降、たくさんの活動が縮小されています。時代の変化に合わせてPTA活動も変革していく必要はあると思いますが、子どもたちの豊かな心を育む活動は、次代につなげていきたいです。



PTA役員による「読み聞かせ活動」の様子

子どもが笑顔！！

大垣ミナモソフトボールクラブによるベースボール型授業の指導について

1 はじめに

平成28年、大垣市と大垣ミナモソフトボールクラブが、大垣市内の小中学校における体育授業等での指導について協定を締結して以来、小学校を中心に多くの学校において、授業の指導が行われている。(令和7年度は12校実施)

大垣市の小学生5年生男女のスポーツテストにおけるソフトボール投げの経年変化を比較すると、下記のようになった。

小学5年生	平成29年度	令和6年度
大垣市男子 ()は全国	23.54m (23.51m)	20.09m (20.75m)
大垣市女子 ()は全国	14.27m (14.40m)	13.55m (13.15m)

この表からは、平成29年度と比べると、令和6年度は、男女ともにボールを遠くに投げられなくなってきていることが分かる。こうした現状から、大垣ミナモソフトボールクラブによる授業の指導は大変貴重な時間だと言える。

2 授業の概要

(1)目的

ソフトボールの捕り方や投げ方、打ち方等の指導をとおして、児童生徒の球技に対する興味・関心を高めるとともに、運動技能の向上を図る。

(2)授業会場

実施小中学校の体育館

(3)指導支援内容

「捕る」「投げる」「打つ」「走る」などの基本的な技能を習得させるとともに、体を動かすことの楽しさや喜びを伝える。

3 授業の工夫

(1)選手のすごさを体感

希望者は打席の近くに立ち、現役のピッチャーの球がどれだけ速いのかを体感することができる。



打席に立つ様子

(2)投げ方の指導

どの子どももしっかりと投げられるように、投げ方指導がある。まずは、利き手にボールを持ち、

もう片方の手を相手に向けて「大」の字を作る。次に、ボールを持った手の甲で自分の頭を「トントン」とたたく。その後、「クルン」と手を返し、ステップを踏んで投げるように指導される。「トントン・クルン」のリズムで投げることで、運動が苦手な子どもでも、正しいフォームが身に付いてくる。



キャッチボールの様子

(3)ミニゲームの実施

授業の後半は、学級全体でミニゲームを行う。まず、学級を攻撃側と守備側の2チームに分ける。一塁・二塁・三塁・本塁それぞれの位置にカラーコーンを置く。次に、守備側は全員が外野の位置に立つ。攻撃側は、本塁の位置から一人ずつ全員が守備側陣地に向かってボールを投げる。守備側は、投げられたボールを誰かがキャッチし、その子のところに全員が急いで集まり、「アウト」と叫ぶ。攻撃側は「アウト」とコールされるまで走り、一塁付近は1点、二塁付近は2点、三塁付近は3点、本塁付近は、4点を加算する。こうして、両チームが得点を競い、勝者を決める。



ゲームの様子

4 終わりに

子どもの感想には、「私でもこんなに投げられるんだ!」「投げるコツがわかりやすかった」など、ソフトボールの魅力を感じた意欲的なものが散見された。スポーツが得意な子どもも苦手な子どもも全員が「捕る」「投げる」「打つ」「走る」を楽しみながら体験できる本授業は、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。すべての子どもが「自分にもできた!」と感じられるよう今後も支援をしていきたい。

(社会教育スポーツ課 松永 健一郎)

ぬくもり

大垣市の教職員研修の充実に向けて ～社会の変化に対応する「主体的・自律的な学び」へ～

1 はじめに

「令和の日本型学校教育」の実現、すなわち「個別最適な学びと協働的な学び」を一体的に進めるためには、学校教育を担う教師の高度な専門性と資質・能力の継続的なアップデートが不可欠です。

そのため、大垣市教育委員会は、中央教育審議会答申が提言する「研修の転換」を力強く推進し、教職員が主体的・自律的に学び続けられる環境整備に努めています。今年度の研修は、この「学びの転換」と「協働的な職場環境づくり」を具現化するための多角的な取組として展開しています。

以上の点を踏まえ、本市が実施している研修の一例を紹介します。

2 二つの訪問研修

教職員一人ひとりのニーズと学校の課題に合わせた「訪問研修」を実施し、主体的・自律的な学びを支援しています。

(1) 訪問研修Ⅰ：若手教員の次なる挑戦を支援

教職4年目の教職員や希望者を対象に、初任期を終えた教員が直面する新たな課題の解決に焦点を当てています。「ねらいに迫る授業を追究したい」、「保護者とよりよい関係を築きたい」など、実践の中で生まれる多様な課題意識に基づき、研修内容を設定します。年間を通じた継続的な助言をとおして、教科指導・学級経営・特別支援教育など、幅広い分野で実践力の向上を目指します。

<参加者の感想>

自分に自信のない分野について、直接ご指導いただいたことで、大きな自信につながりました。また、普段なかなか出会えない先生とのつながりをもつことができ、今後とも指導していただけるのが大変ありがたいです。また、来年も受けたいと思える研修でした。ありがとうございました。

(2) 訪問研修Ⅱ：学校主導の課題解決をサポート

各学校の研修主事は、学校全体の課題やニーズに応じて校内研修を計画・立案しています。市では、研修内容に関する相談対応や好事例の紹介などを通じて、学校主導による効果的で実効性の高い研修の実現を具体的に支援しています。

【実施された研修例】

- ・ いじめ未然防止に関する講話・演習
- ・ GIGA端末を活用した授業実践研修
- ・ 教科指導力の強化と授業改善研修
- ・ 合唱祭や体育大会に向けた学級経営研修

3 特別な支援と新たな取組

全ての子どもたちの社会的自立を支えるため、特別な支援を必要とする児童生徒への対応力向上を目指した研修を展開しています。

(1) 喫緊の課題に対応する研修

【大垣市教職員研修会】

不登校の課題に対応するため、児童生徒への深い理解と具体的な支援・対話のポイントを学びました。

【だれもが研修】

特別な支援を要する児童生徒への早期対応と個別支援計画の見直しを通じ、教職員の対応力向上を図りました。

(2) 「スマイルサポートチーム」の創設

今年度は新たに「スマイルサポートチーム」を創設し、専門的な知見をもつチームの派遣や研修により、特別な支援を要する児童生徒への支援を強化しました。

4 おわりに

これからも、教職員の主体的・自律的な学びを支えながら、研修で得た知識や実践を学校内で共有し、学び合う文化の醸成を図っていきます。こうした取組を通じて、協働的な職場づくりを一層推進していきます。すべては、未来を担う子どもたちの健やかな成長のために。

(大垣市教育総合研究所 山田 優貴)

令和8年(2026)の大河ドラマ「豊臣兄弟！」は、豊臣秀吉をすぐ側で支えた豊臣秀長を主人公に、豊臣兄弟の立身出世が描かれます。ここでは、大垣と豊臣秀吉との関わりをさまざまな資料から紹介します。

1 秀吉と大垣の寺院

秀吉がまだ木下姓を名乗っていた時期(元亀2年(1571)以前)、西門寺(大垣市草道島)の古文書に、木下藤吉郎秀吉(豊臣秀吉)の名前と花押(サイン)があります。

この書状で秀吉は、川西(長良川か)の寺にかかる役銭(税金)が150貫文に決まったと、西門寺に伝えています。

2 本能寺の変直後の大垣

天正10年(1582)6月13日、山崎の戦いで明智光秀を討った秀吉は、清州会議に参加するため美濃へ向かいました。秀吉が光秀を討ち果たしたことを知った美濃の武将達は、長松城(大垣市長松町)で秀吉に人質を差し出し、秀吉に味方しました。

その後、岐阜城に着いた秀吉は、曾根城(大垣市曾根町)にいた稲葉一鉄家臣の那波直治に、曾根城に避難していた織田長利(信長の末弟、本能寺の変で討死)の奥さん達を岐阜へ護送するよう依頼しています。

3 賤ヶ岳の戦いと大垣城

岐阜城主となった織田信孝(信長の三男)は、柴田勝家等と結んで、豊臣秀吉と対立しました。秀吉は天正10年12月16日、岐阜城の織田信孝を攻めるため大垣城に入りました。曾根城の稲葉氏をはじめ、西美濃の多くの武将達が秀吉に味方したので、孤立した織田信孝は秀吉に降伏しました。

年が明けた天正11年、秀吉と一旦和睦した織田信孝は柴田勝家等と示し合わせ、再度、岐阜で挙兵しました。これを聞いた秀吉は、4月17

日大垣城へ入り、19日岐阜城を攻める予定でした。ところが雨で川が増水したので、岐阜城の攻撃は中止となりました。20日、柴田勝家が越前から出兵したとの知らせを受け、秀吉は大垣城から賤ヶ岳(滋賀県長浜市)に向け進発しました。「美濃大返し」とも言われる強行軍により、約54kmを5時間程で進軍し、秀吉は木之本(滋賀県長浜市)に到着し、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破りました。

頼みにしていた柴田勝家が滅亡したため、岐阜城の織田信孝は、兄の信雄に降伏し、尾張の野間(愛知県美浜町)に送られました。

4 大垣城主 池田恒興



大垣城

天正11年5月、美濃の多くの部分が池田家と与えられ、池田恒興が大垣城に入りました。長男の元助が岐阜城主、次男の輝政が池尻城(大垣市池尻)主となりました。

大垣城に入った池田氏は、領地の境界をめぐり稲葉一鉄と激しく対立し、ついに武力衝突に発展しました。

これを聞いた秀吉は、使者を派遣して、稲葉家と池田家の領地を確定するよう命じ、絵図面等を作成させました。秀吉は、稲葉一鉄が主張した領地の6割程しか認めず、稲葉家に不利な裁定を下しました。

(図書館 歴史研究グループ 児玉 剛)

秘密のある石

伊藤 繁雄

この町の高座に、マキの大木が植えてある屋敷があります。この屋敷は、江戸時代の始め、安田権左衛門という人が、当時の庭師の大家であった石川氏に学んで作った立派な庭園です。庭園の中央にマキノキがあるので、地元の人には「おおマキの家」と呼ばれていました。

庭の奥には池があり美しい清水が満ち、庭に面しては名士が茶の湯を楽しんだという数寄屋（すきや）が建っています。

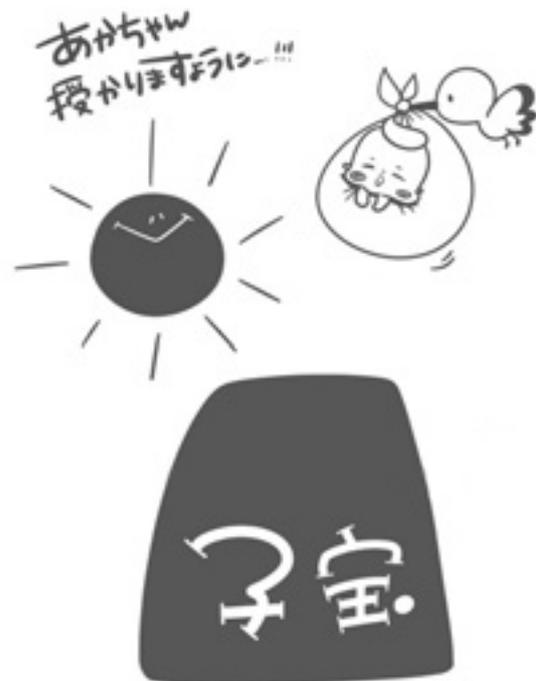
この庭園の片すみに、高さ30センチメートル、横幅15センチメートルほどの四角形の石が苔の中に据えられています。この石が安田家に伝わる「子どもの授かる石」です。この石はクスノキの化石だそうです。

由来や文献などはないのですが、いつの頃からか、子宝に恵まれない女性が、この石におしりに乗せて、お祈りをすると子どもが授かると言われ、女性が訪れるようになりました。

古い時代には、稲作などの五穀豊穡を祈ることに加えて子どもを授かる願いを込めて石の神をまつたことが由来になっているという人もいます。

土地の人の話によると、昔は高価な色刷りの広告まで出して宣伝がされていたようで、霊験あらたかだというので、遠く名古屋・伊勢・京都からも人々が参詣しご利益を受けたようです。

町の中には古くから不思議な言い伝えがある物がありますね。それぞれの地域で言い伝えられている昔のものを探してみるのも楽しいですね。





～ 文教のまち 大垣 ～

大垣市×SDGsお化け 報告会・発表会

11月15日（土）に、「子どもが主人公の『未来のすてきな大垣』づくり事業 大垣市×SDGsお化けを探せ 報告会・発表会」を行いました。

この会では、2つのチームの活動報告と第2期優秀作品の発表を行いました。



イートミー

まず「イートミー」チームから、好き嫌いをなくし、給食や家庭での残飯を減らす給食メニューの考案について活動を報告しました。好きなメニューと組み合わせたり、試作をしたりし、献立の作成までに、さまざまな試行錯誤があったことを紹介しました。



コイバー

次に「コイバー」チームから、大垣のまちをきれいにするための、ごみ拾いイベントの計画について紹介しました。ごみ拾いイベントのよさとして、「さまざまな年代の人が一緒に活動できる」「SDGsを身近に感じることができる」「市への愛情を深めることができる」と、期待いっばいに発表しました。

第2期の優秀作品については、会報の表紙にて紹介をしています。

来年度も、「大垣市×SDGsお化け」事業については展開していきます。大垣市とも連携しPRを行っていく予定です。

(学校教育課 鈴木 宏教)



石田市長から祝辞をいただいたときの様子



「コイバー」チームの発表の様子

ふるさと美術散歩⑫ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《楊四娘》昭和44年（1969）
（大垣市蔵）

世界三大美女と言え、古代エジプト女王のクレオパトラ、日本の六の歌仙のひとり小野小町、そして中国唐王朝の王妃楊貴妃（719～756）です。

今から1300年ほど前、中国では長く続いた戦乱の世の中が終わり、唐

王朝が隆盛を誇っていました。特に第6代皇帝・玄宗の時代には、開元の治と称えられる善政によって絶頂期を迎えました。楊貴妃はその玄宗の帝妃です。

《楊四娘》は、まだ玄宗に嫁ぐ前の楊貴妃と3人の姉を描いた作品です。楊貴妃は絶世の美女として有名ですが、姉たちも負けずに美しく、それぞれ韓国・魏国・秦国の王妃となりました。楊姉妹は栄華を極めますが、755年に起こった安祿山の乱で、悲運の最期を迎えました。

将来、過酷な運命をたどることになるとは思ってもみない楊姉妹が、無邪気に野山を馬で駆け回っています。一番手前の白馬に乗るのが楊貴妃で、髪に飾り髻を付け、黄色い裾（長いスカート）を好んで身に付けたようです。考証を重ねた衣装や馬具の装飾が見事に描かれています。

岩絵の具のざらざらした質感、背景を花で埋め尽くした構成は、イタリア留学の際に触れたルネサンス絵画に通じる一方で、金箔の効果は壮麗な大和絵を連想させます。国際色豊かな唐の繁栄の様子を現代に甦らせた作品です。

企画展「花咲きほこる頃」

会期：令和8年2月14日（土）～3月31日（火）
草花を描き込んだ院展出品作品や、入門間もない頃の花の素描やスケッチなどを展示。

